【第３号様式】おきなわSDGs認証制度　主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

１．団体情報

企業･団体名	株式会社かりゆし

２．申請内容

（１）2030年のあるべき姿（ビジョン）　※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
＊SDGsの目標である2030年までに、「（２）今後2年間で特に注力する活動･取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）	2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール ＊SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
私たちは、沖縄県内の地元資本・地元企業として、創業63年目のホテル事業を通じて、地域の持続可能な発展に貢献してまいります。2030年までに実現したいビジョンは、SDGsの取り組みを継続、進化（深化）させ、環境と地域社会の調和を重視し、ウエルビーイング推進による人財への投資と処遇改善を行い、自然保護と両立させた持続可能な観光と地域づくりです。 具体的には、地域の雇用創出とともに、地元の文化や伝統を振興します。また、自然環境の保護を最優先課題とし、環境に優しい運営や資源の効率的利用を推進します。さらに、SDGsの17の目標に則り、地域の暮らしの質向上と環境保全の両立を目指し、地域住民や訪れるお客様とともに持続可能な未来を築いていきます。 私たちのビジョンは、「沖縄の豊かな自然と伝統を守りながら、地域の未来を担う人財を育て、持続可能な観光と地域づくりを実現すること」です。これを実現することで、2030年には、自然と調和した沖縄らしさ溢れる持続可能な地域社会を創造し、次世代に誇れる沖縄を築きたいと願っています。	

（２）今後2年間で特に注力する活動･取組　※最低３個（経済･社会･環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動･取組			おきなわ SDGsアクションプランとの関係性				関連するステークホルダー	補足事項･留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 ＊任意の箇所は、プルダウンから分類を選択ください。		優先課題	SDGs推進の目標		関連するSDGs ターゲット	＊連携･協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	＊補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値（2025年6月）	目標値（2027年6月）
1	恩納村の地域素材･ベチバーを活用した商品開発による地産地消の推進	経済	必須	優先課題④	④−3	沖縄県産農林水産物のブランド化による県外消費と地産地消の促進により農業･林業･水産業の産出額等の拡大を実現する。	12.4	農家、恩納村役場、地域住民など、関係者とのコミュニケーションを密にし、協力体制を構築する。	＜KPI補足＞ 2025年6月現在、ベチバーを使用した体験プログラムを行っており、ニーズを調査しつつ試行錯誤している。 2026年には商品を1点開発し、2027年には販売を行う。	商品開発個数	0点	1点（2026年6月）
2	社内でのウエルビーイングの推進に向けた方針策定･規則整備･研修会実施	社会	必須	優先課題①	①−5	安全･安心で充実感を持って働くことができる労働環境を促進し、誰もが生き生きと活躍できる社会を実現する。	10.2	社員、顧客、取引業者、地域住民、公共機関、教育研究機関	＜KPI補足＞ ②新規規程1件は、ラーケーション助成を想定している。 ③2030年までに参加率100%を目指すため、年4%以上向上させる。	①ウエルビーイング推進方針(仮称)策定 ②各種規則の見直し･新規整備件数 ③各種研修会や永年勤続者表彰、交流研修会等の実施	①方針未策定 ②0/22規程 ③フィロソフィ研修：年3回、参加率80% 階層別研修：新入･管理職は実施、経営層は未実施	①方針策定（2027年3月） ②22/22規程+新規規程1件（2026年3月） ③参加率を年4%向上
3	かりゆしサンゴパークでのサンゴ教室推進による、住民への環境保全啓もう教育活動	環境	必須	優先課題⑦	⑦−1	美しく豊かな自然が保全され、生物多様性の維持を実現する。	13.3、14. c	沖縄県科学技術大学院大学、恩納村漁業協同組合、恩納村観光協会、恩納村役場		イベントの年間受入校数	2校	4校
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済･社会･環境･ガバナンス･地域課題への貢献･国際課題への貢献」から自由に選択ください）												
4	県内の特別支援学校による制作物の販売会をホテル館内で開催し、地元住民や観光客向けに販売し、生徒たちに将来の就職に繋がる体験をしてもらう場作り	社会	必須	優先課題①	①−2	障がいをはじめとした課題を持つ全ての人々にとって、協力的で包摂的なサービス･アクセスを提供する社会を実現する。	10.2	県内支援学校 恩納村社会福祉協議会	＜KPI補足＞ 2025年6月現在、学校側に企画提案を行っている。 2027年より毎年1回の開催を継続し、来場者数は50名、毎年10名増加を目標としたい。	イベントの開催回数と来場者数	0回･0名	1回･50名
5	海外インターンシップの受入	国際課題への貢献	任意	優先課題⑫	⑫−2	世界各国との交流の推進を通じて、グローバルパートナーシップを促進する。	4.4	各教育機関（海外の大学） インターンシップ支援機関	＜KPI補足＞ 年間4校の継続的な受入が出来るよう、受入体制及び現場調整を行う。	年間受入校数	3校（2025年7月）	4校（2027年7月）

（３）各活動・取組に関する詳細　※記載必須

各活動・取組に関する詳細		
＊各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。		
取組1	取組の詳細	恩納村では海洋保全の取組として、赤土流出防止対策を行っている。対策の一つとしてグリーンベルト、ベチバー（イネ科の植物）を畑の周囲へ植え付けており、畑からの赤土流出を防ぐ効果がある。より多くの農家さんに植付を行っていただくことで、沖縄の観光資源であるきれいな海が保たれる。 また、グリーンベルトのベチバーを二次活用した商品開発を通じて、地産地消を推進し、地域経済の活性化を目指す。ベチバーの新たな価値を創出することで、農家の所得向上に貢献し、恩納村にある地元企業としてSDGsの活動を通じて地域へ貢献する。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	現在は、恩納村観光協会よりベチバーを使用したミサンガキットを購入し、クラフト体験やサンゴ教室のメニューに取り入れている。また、恩納村産のベチバーを使用したディフューザー商品を仕入れ、売店で扱っている。
	取組において、 今後予定していること	今後は、よりベチバーを知ってもらえるような取り組みを開催する。事前にお客さまへベチバーの存在を周知し、商品化した時に購入意欲を持ってもらえるように、8月にあるかりゆしフェスタでは恩納村役場と連携してベチバーミサンガ作りとベチバー活用商品の展示を行う。 今後、ベチバーミサンガ等の雑貨を商品化する際は、恩納村の取組やベチバーの赤土流出防止効果等の説明書きを同封、販売ブースにも張り出し、活動の意味を伝える。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	（1年目）製品の商業化：自社製品の開発を完了し、販売可能な状態にする。自社売店での出品準備を完了する。 ベチバーミサンガにかりゆし独自のチャームなどを取り付けて商品化する（チャームに使用する素材もベチバーを使用したプレートを使用予定）。琉球大学にて開発しているボタニカルプレートを使用したい。 恩納村役場に紹介していただく予定。プレートの型を作成し、印字する内容を検討する。試作品の完成を約半年で行い、パッケージと梱包方法を試作する。 （2年目）商業化した製品の販売を開始し、売上や農家からのベチバー仕入れを通じて、経済効果を生み出す。
	取組を推進する体制	社内委員会のSDGs委員会が主体となり、恩納村役場農林水産課・恩納村観光協会の意見も伺いながら進める。試作品は、かりゆしビーチサンゴ担当スタッフと共に開発を行う（デザイン・素材の選定など）。 商品化の目途がつき次第、売店の販売担当者も参加し、販売方法（パッケージ・価格）の設定を行う。
取組2	取組の詳細	①ウエルビーイング推進方針（仮称）策定：ウエルビーイングは広範囲な概念であり、現状を把握し、ウエルビーイング推進施策を示した「ウエルビーイング推進方針（仮称）」を2026年度内に策定する。 ②各種規則の整備：現在ある「就業規則」・「給与規程」等の22規程について、ウエルビーイング等の視点から点検を行い、必要に応じて改定を行う。 また、ラーケーションと言う新しい制度が、沖縄県高等学校から試行的に実施されたことから、当社においては、社員が経済的にも参加しやすい様に、助成金制度を整備する。 なお、ラーケーションとは、「学習（ラーニング）」と「休暇（バケーション）」を組み合わせた造語で、子どもが保護者等と一緒に平日に学校を休んで、自ら考えた校外での体験的・探究的な活動を行う制度である。 ③各種研修会の実施：社員の意識向上や社内交流を活性化し、社員の幸福度を向上させるために、「かりゆしフィロソフィ勉強会」を年3回実施する。 なお、「かりゆしフィロソフィ」とは、株式会社かりゆしが稲盛和夫氏の経営哲学や京セラ・JALフィロソフィを参考に策定した、同グループ社員が共有する価値観・考え方・行動の指針である。 また、社員の課題解決能力やコミュニケーション能力を向上させるために、新入社員・管理職・経営層の階層別研修等を実施するとともに、エンゲージメント向上のための永年勤続者等の表彰等を行う。 さらに、地域住民や行政機関等のステークホルダーを巻き込んだ「地産地消」や「赤土流出対策」等を学習・告知するようなイベントを開催し、交流研修とする。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	①ウエルビーイング推進方針（仮称）策定：2025年度、当社社長の運営目標に「ウエルビーイング」推進が掲示され、社内安全衛生委員会においても、毎月、ウエルビーイングへの取組検討が行われている。 ②各種規則の整備：当社では、22の規程が整備されており、6規程においては、法改正等に併せて改定作業を行った。 ③各種研修会の実施：「かりゆしフィロソフィ勉強会」を年3回、新入社員・管理職研修を実施した。
	取組において、 今後予定していること	①ウエルビーイング推進方針（仮称）策定：2026年度中に方針を策定する。 ②各種規則の整備：改定作業を行うとともに、ラーケーション助成金規程を整備する。 ③各種研修会の実施：「かりゆしフィロソフィ勉強会」、新入社員・管理職研修を継続実施し、外部講師招聘も視野に入れた経営層研修を実施する。社内アンケートを基に、要望の多い研修を取り入れていく。 2025年10月より、DX研修（DX養成講座E-ラーニング）（エバンジェリスト養成講座）を半年間のプログラムとしてスタートする。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	①ウエルビーイング推進方針（仮称）策定：当社で方針がないため。ウエルビーイング施策が可視化できる。方針の有無。 ②各種規則の整備：社員への福利厚生等の対応状況がわかるため。法定決定事項に沿って改定するため。改定または見直しを行った規程類数による。 ③各種研修会参加率：社員への浸透率を予想するため。より多くの社員が参加したことを可視化するため。研修会等への参加率をカウントする。
	取組を推進する体制	①ウエルビーイング推進方針（仮称）の策定：社内に委員会を設置し、社員はもとより、顧客・取引業者・地域住民・村や観光協会等の公共機関・国立高専等の教育研究機関にも意見聴取をし、優良事例等があれば関係者へのフィードバックを行いながら自社にて策定する。 ②さらに、ウエルビーイング施策を具現化するために、当社イベント等と連携して、実行委員会等を設置して、食の「地産地消」学習や、ベチバー加工や現地視察学習を通して「赤土流出防止対策」についても多くの関係者がお互いに情報を共有し、より良い活動となるような交流研修を主催することができる体制を作る。
取組3	取組の詳細	かりゆしビーチサンゴパークの施設を利用して、地域住民向けのサンゴ教室を行う。サンゴ村宣言をしている恩納村や、隣の名護市に住む人に訪れていただき、環境問題やSDGsの啓発・サンゴの大切さを、海と関わる事が多い地元の子供たちに知ってもらう。 ※サンゴ教室の概要：サンゴの生態やサンゴの置かれている現状、環境についての座学→タッチプールで生き物観察（サンゴ礁に生息している生き物紹介）→サンゴの苗づくり→グラスボート船に乗り実際に観察をする。OISTのかりゆし海域のサンゴ生息調査のような取組を紹介し、科学に触れる機会も設けたい。対象は小学生。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	現在は、恩納小学校・名護市の保育園を招待し開催しているが、今後は幅を広げての展開を行いたい。
	取組において、 今後予定していること	恩納村・名護市の幼稚園・保育園・小学校へチラシを配布し、自社HPなどでも告知を行い集客を行う。今後は地域を広げての募集を目指す（受入団体数を増やせる体制づくりも行う）。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	実施後にアンケートを取り、メニューの満足度向上に向けて参考にしたい。参加した生徒が、これをきっかけに海に興味を持ち、子供たちの担う未来でもサンゴが元気に生きられる環境を守ってもらいたい。 現在は年間2校の受入を行っているが、4校を目標にする。
	取組を推進する体制	【社外体制】沖縄科学技術大学院大学（OIST）より運営面のアドバイスや掲示物の作成、ゲノムからかりゆし近海のサンゴの生息状況を割り出してデータを共有いただいている。 【恩納村農林水産課】赤土に関する資料のご提供をいただいている。 【恩納村観光協会】ベチバーミサンゴ（ベチバーを使用したミサンガ）のキットを購入している。 【社内体制】教室の開催はかりゆしビーチサンゴチームにて行う。社内委員会「夢・創造の種まき委員会」にて学校側への募集を行う（夢・創造の種まき委員会は、社員は誰でも参加できる委員会で、実現したい企画を持ち寄り会社がバックアップし実現させる事を目指すための活動を行っている）。
取組4	取組の詳細	支援学校さんでは、生徒さんが木工班・農業班・家庭班・などに分かれて活動をしており、制作した商品の保護者向け販売会を学校内で行っている。金銭のやり取りも生徒が行っている。 慣れている場所ではなく学校外での販売体験・保護者以外の地域の方への接客体験は、将来就労をする際に役立つような経験になる。障害者雇用だけではなく、イベントを開催することで、県内企業に支援学校の生徒へ興味を持ってもらい、県内の障害者雇用を促進したい。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	現在は、社内での場所の選定や調整と合わせて、安全面等の問題は無いか洗い出しを行い、近隣の名護特別支援学校へ企画提案を行う段階である。販売会の開催は、生徒の移動もありハードルが高いため、絵画を絵はがきにしたり小さな木工品の展示販売から始めていく。
	取組において、 今後予定していること	2025年10月1日にパブリックスペースに「かりゆしルーム」をオープン予定。このスペースでは、かりゆしの歴史・取組・地域貢献事業の紹介や、アート作品の展示・販売を行う。 そこで支援学校の生徒さんが作成した作品の販売を行うスペースを作り、生徒たちに、自分の商品が売れる達成感を持ってもらいたい。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	現在は実施していないため、①1年目は学校との日程調整や問題点の洗い出し・解決、②2年目には販売会の開催を行う。また、2030年以降も毎年の行事として継続開催を行いたい。 2026年より周知し、毎年来客者数を伸ばしていきたい。第1回目来客者数50名→第2回目60名を目標とする。
	取組を推進する体制	県内の支援学校と連携し、安全面の管理やサポートが必要であれば、社会福祉協議会へ依頼を行う。
取組5	取組の詳細	現在100名ほどの外国人スタッフが在籍し、うち半数がネパール人。永住許可者・特定技能・インターンなど様々だが、困りごとが多いとのことを受け、国際友の会を作りよろず相談を行う等、外国籍スタッフが働きやすい環境づくりを行っている。インターンシップでは、県の補助金を獲得した支援機関と連携し、海外よりインターンシップ生の受入を行い、沖縄で働きながら日本や沖縄の文化やマナーを学んでもらい、将来沖縄で働きたいと思ってもらえるような体験をしてもらう。多くの外国籍スタッフが勤務している強みを活かし、インターンシップの期間に多くのことを体験していただく。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	現在もインターンシップ生の受入を行っている。期間は１ヶ月半程度（中国の大学生が３校から計４名が実習中）。
	取組において、 今後予定していること	2025年9月中旬～半年のインターンシップ（日系ポリビア人2名）を予定している。また、キルギスの国立大学日本語学院・台湾義守大学と産学官協定を交わし、支援機関（県の補助金を取得した支援機関）との連携を強化し継続的な受入を行える体制を整える。また、受入後のインターンシップ期間には、沖縄・日本の文化に触れていただく文化体験やより内容の濃いプログラムを構築し、沖縄での生活のイメージがつくような周辺施設の紹介も行いたい。 インターンシップ受入時と終了時にアンケートをとり、沖縄の魅力を伝える事が出来たか・満足度・就職意欲の確認を行う。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	受入体制・現場での調整が必要にはなるが、受入数が減少しないようにする。人数を多くしてしまうと手厚いサポートが難しくなる可能性があるため、一定の人数にとどめ、インターンシップの内容を手厚くし日本での就職希望に繋げることを目指す。 指標の設定理由は、安定した受入体制をとるため。目標値の妥当性・業務の割り振りおよびバックアップ体制を含めた目標値。 インターンシップ受入時と終了時にアンケートをとり、沖縄の魅力を伝える事が出来たか・満足度・就職意欲の確認を行い、次年度も学校側からインターンシップの実施を希望していただけるような体制を整える。
	取組を推進する体制	インターンシップ生在籍校、支援機関（県の補助金を獲得した支援機関）＝支援機関を通じて受入依頼をいただく。 受入後のバックアップ体制：HRM人財開発部（滞在中のサポート・研修の企画運営・面談・アンケート調査）各配属部署（現場教育・日々のサポート）